

空調機器の清掃 IoTで効率化

日美装建、エコモットと

ビルメンテナンスの日美装建(札幌市)は、あらゆるモノがネットにつながるIoTを使い、空調機器の清掃を効率化する。システム開発のエコモットと組んで、空調のフィルターの汚れを検知するシステムを開発。11月中旬に札幌市の企業に導入する。現在は作業員が定期的に現地に向いて確認しているが、汚れに依じた巡回が可能になる。初年度100施設の導入を目指す。

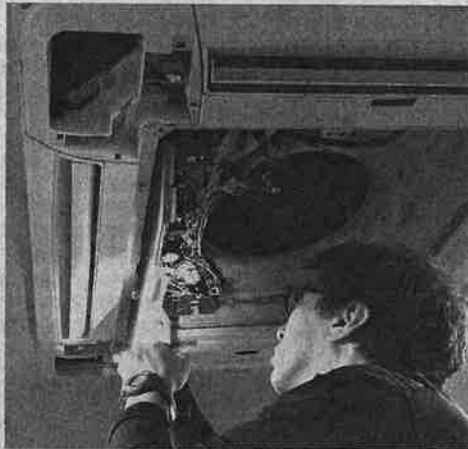
汚れなど検知、巡回に反映

検知システム「AIRNOTE(エアノート)」は温度センサーや電流センサー、データの通信機などから構成。電気の消費量の推移などからフィルターの汚れなどを調べ、空気の状態が求められる。空調の清潔さが求められる。空気の状態が求められる。

られる病院や老人ホーム、スーパー、食品工場などでは、顧客の要望に応じて室内の二酸化炭素(CO₂)やPM2.5(微小粒子状物質)も計測できるようにする。導入に伴う投資額は2000万円程度を見込

む。日美装建はこれまで作業員が現地に向いて機器の状態を確認していた。まんべんなく巡回が必要だったが、今後はフィルターが汚れている空調から優先して巡回することが可能になる。遠隔で点検できれば、現地での点検を年1回ほどに抑えられるという。さらに顧客企業に対

「AIRNOTE」で空調の状態を確認する



日美装建がエコモットと組んで開発した空調機器管理の「AIRNOTE」

し空調の衛生状態を見獲得するほか、空調の整備だけでなく施設内の清掃業務全般を幅広く引き受けることで事業を拡大できるとみている。一方、エコモットはIoTを使った自社ブランドの各種システムだけでなく、取引先のニーズに合わせてシステムを開発し、顧客の裾野を広げる必要があるとみている。AIRNOTEのような顧客のニーズに合わせた事業の売上高を今期(2018年3月期)見通しの2億円から、3年後に6億円まで増やす。

農業活性化へ会議

伊達信金、認証取得を支援

伊達信用金庫(伊達市)は、地元農業者のための、地元農業者の活性化を支援す。小売事業者などと連携し、

「子育て中の社員業務に支障」 道内男性5割弱

と調査 と生命第1

北海道と第一生命保険がまとめた道内の女性の就業に関するアンケート調査によると、「子育て中の社員業務に支障」を答えた。男女比は男性が10.5%、女性が86.1%。残りは無回答。

1%、女性が34.5%と、男性の方が育児や家事のために早く帰ったり有給休暇を取ったりしにくい環境にある。「勤務時間に制約のある女性は、管理職に適さない」と考える男性は48.3%、女性は41.3%だった。

は60.4%、女性は57.3%と、困難が半数以上を占めた。雇用されている女性が活躍できる職場環境づくりに必要なこと(複数回答)については「育児休業や介護休業などの両立支援を進める制度の充実」と回答した割合が56.5%と最も高く、

スーパーにエゾカ導入

ホクレン商事(札幌市)はサブドラホールディングス(HD)子会社のリージョナルマーケティング(同)と、エゾカの利用促進を目的としたパートナーシップ協定を締結した。リージョナルマーケティングが

ホクレン商事

年2月まで28店で

導入。真一を導入。ら、運営する。でエゾカを。パートナーに結んだ。ホクレン「ホクレン」札幌市を中心とする。同社は約70店舗を